

1/4(土)まで! 倫理号です。仲間が毎週月曜日朝登校時挨拶運動と
清掃実践にまつ 心も清掃 近の小学校の

今週の

倫理

1月のテーマ | 心の整理

2023. 1. 14~1. 20

1316号

「竹」は日本の文化の一つです。竹は「松竹梅」と称されるように、お正月に飾る縁起物の一つとしても知られています。

例えば、平安時代初期に成立した物語文学『竹取物語』では、竹取の翁に竹の中から発見された、かぐや姫の話が書かれています。

竹は上下に節があり、風や雪など折れそうになっても節があるために折れずに成長します。この節にあたるのが、物事の区切り目であり、節目なのです。

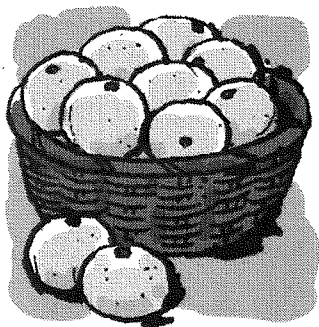
毎日の仕事や生活の中で竹のように節をつけていくことで、良い仕事や生活につながっていくことができます。

日本人は昔から始めと終わりの節（けじめ）を大事にしてきました。挨拶もその一例で、多種多様な挨拶があります。また、後始末として行なう清掃も、次の始まりにつながる物事の終わりの節（けじめ）といえます。

清掃と同じ意味として使われる言葉に「掃除」があります。『日本国語大辞典』によると、掃除とは、「塵芥その他の汚物をはらいのぞくこと」、清掃とは、「清らかに掃除すること」とあります。

その場から汚れを取り除くだけでなく、掃除を通して、自分の心を清らかにし、物と空間を清めるのです。

毎年六月三十日と十二月三十一日の夕刻、宮中をはじめ、全国の神社で執り行なわれる、お祓い行事に「大祓（おほはらえ）」があります。人々の穢れをはらい清めるための神事であり、半年毎に恒例のものとして行なわれるので「二季の祓」とも称されます。



場を整えることで 自己と周囲の心も整理される

日常では、年末の大掃除がこれにあたります。普段の生活でも、清掃や後始末を大切にすることは、心を清めることにつながります。逆に疎かにしてしまうと、埃がたまっていくように、心も荒んでいき、様々な問題につながっていくのです。

不動産会社を経営するAさんは、社員同士の仲が悪く、職場の雰囲気にも悪影響を及ぼしていることに頭を悩ませていました。そして、そのせいもあってか、離職率も年々高くなっていったのです。

ある日の経営者モーニングセミナーで、講師の「職場は整理整頓できていますか。職場の空気は清らかですか。どんな環境で社員が働らくかで働き方も変わってきます」との言葉にAさんはハッとしました。翌日、改めて職場内を見渡してみると、埃はたまっている、棚は整理されていない、資料はバラバラというあり様に愕然としました。

その日から、Aさんは自ら朝早く出社し、清掃を始めました。社員の不仲を責めていたしたが、清掃をしていると、「こんな雑然とした環境で働いていたら、心も荒んでしまう」と反省したのです。そうした心の変化が社員にも伝わっていき、社員も社内清掃に率先して参加するようになったのです。その後、社内は笑顔でのコミュニケーションが増え、離職率も少しずつ改善されていったのです。

場が整理整頓され、清められると清々しい気持ちになります。それが心の整理となるのです。そして、その心こそ、純粋倫理が目指す明朗にほかならないのです。